

SEMI 通信 スポンサー広告募集のご案内

SEMI 通信は、SEMI の会員に加え、セミコンやセミナーなどのイベントに参加された方々に無料で情報を提供してまいりましたが、2008 年 5 月の創刊以来拡大を続け、読者数も 10 万人を超えております。

このほど SEMI は、4 年目にはいった SEMI 通信の発行をサポートしていただく、スポンサー広告の募集をすることにいたしました。

SEMI 通信の発行に係わる費用の一部をご負担いただくことで、業界に広く情報を提供するという役割をサポートいただき、一方で、御社のビジネスの PR にも役立てていただくという、二重の効果を、リーズナブルな費用で達成いただけます。是非ご活用下さいませようお願い申し上げます。

◇ SEMI 通信媒体概要

- 【創刊】2008 年 5 月
- 【発行】SEMI ジャパン
- 【配信数】2011 年 8 月現在 約 107,000
- 【配信頻度】原則毎月 25 日前後に発行
- 【配信形式】テキストメール

◇ SEMI 通信の読者層

- セミコン・ジャパン、PVJapan の参加者が中心となります(95%以上)
- 管理職は約 55%
- IC・太陽電池・FPD メーカーは約 13%

◇ SEMI 通信スポンサー広告要綱

- 広告は全角 36 文字×5 行のテキスト広告です。
- 各号につき上記サイズ 2 枠を募集します。1 社で 2 枠を利用することも可能です。
- スポンサー広告位置は次頁をご参照ください。
- 5 行の中にランディングページへのリンクを含めてください。
- SEMI でのクリックカウントは行いません。
- SEMI 通信の内容とそぐわない内容(SEMI の提供するサービスを妨げる等)と SEMI が判断する場合は、お断りすることがあります。

◇ SEMI 通信スポンサー広告料金

- SEMI 会員 5 万円、非会員 10 万円 (2 枠利用の場合は倍料金となります)(消費税別)

◆ スポンサー広告に関するお申し込み・お問合せ

SEMI ジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-7-15

担当: マーケティング部 安藤 Email: yando@semi.org / 電話 03-3222-5854

◇ SEMI 通信スポンサー広告位置

◆ SEMI ジャパン メールマガジン ◇ S ◇ E ◇ M ◇ I ◇ 通 ◇ 信 ◇

◆ 2011 年 7 月号 「450mm への移行に備える」 + 「PV 分野の SEMI 規格開発」

【7月号の内容】

◇ 記事

- 【1】 SEMI メンバーズ・オピニオン「450mm への移行に備える」
- 【2】 SEMICON West 450mm Transition Forum 資料無料ダウンロード
- 【3】 シリコン原料およびケミカル品質に関する SEMI PV スタンドアードが成立
- 【4】 寄稿記事：在日米国大使館商務部のご案内

◇ SEMI マーケットレポート

- 【5】 SEMI Book-to-Bill
- 【6】 CMP 消耗品市場は急速に回復

◇ SEMI からのお知らせ

- 【7】 産業技術総合研究所「国際標準推進戦略シンポジウム」のご案内
- 【8】 SEMI 機関誌「SEMI News」掲載広告募集のご案内
- 【9】 SEMI 通信についてのアンケート（無記名）にご協力ください

◇ イベントカレンダー

——スポンサー広告——

\\ \\ (株) ABC は半導体プロセスの未来を切開きます // //
セミコン・ジャパン 2011 にて、最新 XXXX 装置を発表展示！ (ブース 8-XXX)
同時開催主催者セミナーのお申し込みはこちら → <http://www.abc.com/seminar>
展示製品： XXXX、XXXX、XXXX
お問合せ： 営業部 XXX チーム → sales@abc.com

——スポンサー広告——

■ □ ■ LED の技術と市場の最新情報がこの一冊に ■ □ ■

「LED 産業エンサイクロペディア 2012」
B5 版変形 1200 ページ CD 付 定価 52,500 円
詳細・パンフレット請求： <http://www.xyzpublishing.co.jp>
◎ XX 月 XX 日まで 20%OFF 特別キャンペーン価格 42,000 円でご提供中！！

◆ 記事

- 【1】 SEMI メンバーズ・オピニオン「450mm への移行に備える」
Entegris マイクロエンバイロンメント事業担当 VP 兼 GM Bill Shaner 氏

.....
450mm に関する疑問は、もはや「半導体産業がこの大口径化に進むかどうか」ということではなくなりました。今問われているのは、「どれだけ間近なのか？」なのです。450mm への移行は、前回のウェーハ口径シフトよりも、大きなコストとなることが予想されています。しかし、ほとんどの専門家は、投資は生産性、コスト効率、製品性能の向上によりオフセットされるとの見解で一致しています。